

赤い羽根助成事業「夏休みろうこどもクラブ」に寄せられた 感謝のお手紙

(社)静岡県聴覚障害者協会

小学 1 年生のお子さんのお母さんより

「夏休みろう子供クラブに参加して…」

毎回楽しみにして参加していました。

うちの子の場合、学校から遠方なこと、クラスの人数も2人と少ない中、
休みに入ると学校の友達とのつながりはなくなります。

地域においても支援学校の子の受け入れは厳しく、一年生の初めての夏休み
は居住地への居場所がないような寂しさを感じさせられました。

そんな中、この児童クラブでは、わかる環境の中で、子供が生き生きと参加することができ、
その日にあったことをいろいろ話してくれたり、次は何があるから楽しみだということをニコニコ
しながら話す様子を見て、このクラブがあって本当に良かったという思いでいっぱいです。

今年の夏休みも子供がわかる環境の中で、継続して楽しめる場所を作っていただけると嬉しい
です。

よろしく願います。



小学 5 年生のお子さんのお母さんより

夏休みろう子どもクラブは、本人にとっても親にとっても本当に有難いクラブです。

出来れば 日数をもう少し増やしていただけたらと思う程です。

長い夏休みは 地域の学校へ通っていない息子(ろう学校)にとって嬉しい反面、つまらない休
みでもあります。

同じ学校の仲間は、静岡だったり 藤枝・焼津などと住む場所も違うし、親も日中仕事で遠い
所に住むろう学校の友達の家へ連れてってあげられない。

近所の子ども達とはあまり面識が無くほとんど遊びません。

こんな夏休みにろうクラブが出来てくれて朝から夕方近くまで安心して預けられて 手話を使
って会話をして下さるボランティアのお兄さんお姉さん。

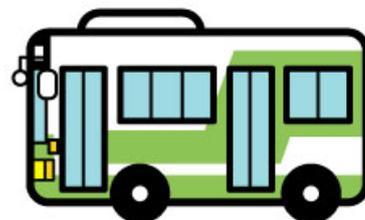
勉強も分かりやすく教えて下さり有難いです。

また 毎回 プールやクッキング 映画や社会勉強も兼ねて街に連れてって下さり 電車やバ
スのマナーや乗り方、食事のマナーなども合わせて教えて下さり大変勉強になるようです。

息子の1番の成長は、自宅から自転車・バス・徒歩でろう子どもクラブまで通えた事です。

是非とも今年も参加させたいと思っています。

継続 よろしく願います。



小学 5 年生のお子さんのお母さんより

ろう児の集団はとても大切です。学校の中だけではなく、ひとつ飛び出した、社会の中での集団となれる場所を与えていただける夏休みろう子供クラブは必要なものです。

生きる力、考える力、自信をもって行動する力など、色々なカリキュラムを通して伸ばしていく環境をつくっていただける事に感謝しています。

子供は友達や先輩、赤ちゃんや後輩と一緒に過ごせる事が1番うれしいそうです。長い夏休みになかなか個人でそういった機会をつくる事は容易ではありません。ろう児クラブに行き、日頃のストレスを発散して明かにスッキリした表情で帰ってくる子供を見ると、単純に本当に良いんだな～～と思います。



小学 3 年生のお子さんのお母さんより

「夏休みろう子どもクラブに参加して」

ろう学校に通っているため、夏休みになると近所に友だちがおらず、ろうの子どもが集まる環境を作っていただきありがたく思っています。また、共働きのため夏休みでも子どもの勉強を見てあげることができませんので、夏休みクラブで午前中、勉強を見てもらえるのはたいへん助かります。プールにも入れてあげたいのですが、家から遠いので、なかなか連れていかれません。子どもクラブで連れて行ってもらえるので、息子も喜んでいきます。

小学 6 年生のお子さんのお母さんより

子どもは、「調理の時、とても楽しかったです。勉強の時、分からない所をわかりやすく教えてくれました。ろう子どもクラブを続けて欲しいです。」と感想を寄せています。

夏休みになると、学校の子どもと会う機会が減ってしまい、学校のプール開放も少ないため、家で一人であることが多かったのですが、子どもクラブに参加させてもらうようになって子どもが楽しそうに予定を立てるようになりました。地域のこどもとも交流をしていますが、同じ障害を持つ子どもとの時間も気兼ねなく過ごせる大切な時間だと思います。このろう子どもクラブを子どもの為に続けて欲しいです。



5歳のお子さんのお母さんより



ろう子どもクラブに参加させていただき、とても息子が成長したと感じています。

どこへ行くにも親と一緒にいなければならなかったわが子が、駅で『バイバイ』と言って親以外の人と出かける姿を初めて見ました。

親と離れても優しいお兄さんお姉さんがいる、楽しい企画があるとの気持ちで安心して1人で参加することができたのだと思います。

親から離れられたという一歩成長した姿に、『成長したなあ』といううれしい気持ちと『わが子が離れていってしまった』という寂しい気持ちとで思わず涙ぐんでしまいました。

子どもと離れた自分自身の時間は、手話学習やろうについての学習等にあてることができ、子どもの世界について知る時間として使わせていただきました。

今まで保育園では、全くプールに入れず着替えもできませんでしたが、お兄さんやお姉さん達とキヤーキヤー言いながら入った楽しい経験のおかげで、その後保育園でも入れるようになりました。色々な経験をさせていただき、この夏休みで大きく成長したと感じています。

「夏休みに地域の中で孤立しがちな子どもたちに集団生活を」との主旨ですが、日頃地域の保育園で孤立して生活しているわが子にとっては、この夏休みクラブしか遊ぶ人がいないたいへん貴重な機会です。良い機会を作っていただき感謝しています。今後ともこのような機会を是非お願いします。



小学1年生のお子さんのお母さんより

夏休みろう子どもクラブの感想や必要性についての感想です。あまりうまく書けませんが…。

息子に、「もし夏休みこどもクラブがなくなったらどうなるか？」「こどもクラブのいい所は何なのか？」「それにもし聾こどもクラブがなくなったら、一応地元の区内会で同じような会があるけれど行ってみたいか？」聞いてみました。

すると息子は、「聞こえるこどもと一緒にいるよりは聞こえないこども同士と一緒にいたいから、地元の方は行きたくない」と答えました。

少なくとも今の息子には他人とのコミュニケーションは手話しか考えられないのです。

私の両親は、私が子供の頃は私に手話を使わなかったので、幼稚園児の時からずっと親戚や祖父母と筆談でやってきました。手話は大人が使う物だと思っていたからです。

でも息子の祖父母も聞こえないので、手話環境にどっぷり浸かっています。本当に聞こえる人とコミュニケーションを取るのも大事な事ですが、全く聞こえず、しゃべれない一年生の息子にはどうやって聞こえる人とコミュニケーションを取ればいいのか判断できずまだその用意が出来ていません。

それどころか息子にとっての母語である手話環境も家庭以外では限られています。だから、夏休みに聞こえないこども同士で、また手話の出来る大人と過ごせる夏休み聾こどもクラブは息子にとってコミュニケーションを学ぶ貴重な機会であり、なくなると困ります。

息子のパパも子ども時代の夏休みは聾子どもクラブみたいなのがなかったので、一人家で留守番して、大変つまらなく早く夏休みが終わらないかと思っていたそうです。そして早く二学期になって聾学校のお友達と手話で心置きなくおしゃべりしたいと思っていたとか。

息子も幼稚部で、夏休みのお話会で一番楽しかった事に夏休みろうどもクラブの事を選びました。

息子は夏休みどもクラブは家と違ってクーラーが効いてる中でお友達と過ごせてプールで泳げる事がいい所だそうです。もしどもクラブがなかったら、早起き出来なくて生活リズムが乱れてだらだらしてつまらない夏休みになると思うと話していました。

